

まちづくり懇談会 結果

日時：令和元年6月25日（火）
午後6時30分～8時30分
会場：コミセン第1会議室

～テーマ「子育て」「教育」～

Aグループ

【前半】

○参加者 4名

○懇談内容

- ①8年前に統合した時は広尾小と第二小で児童数が340人、今年度は230人で8年前と比較して110人減少している。
人口の割に子どもの数が少ない。働く場がないところは子どもが少ない。
- ②学校給食のおかずの品数が1品少ないと感じる献立がある。（他町と比べて）
- ③子供たちはどこで遊んでいるのか。土、日曜日に遊んでいる姿見かけない。
少年団活動、習い事の子の割合が多い。
遊ぶ場所が見えないで過ぎてしまう。
- ④地元の人を大切にしてほしい、今の子は地元を知らないで、都会に出てしまう。
本州では祭りに参加して文化、歴史を学び、郷土愛が育まれる。
- ⑤その土地でしかできない教育をやろう。地元を知ることから始めよう。
- ⑥若者が働く場所がなかったら、働く場所を作る。計画的な人づくり必要
- ⑦自然の中で遊ばす、回転運動が有効、体力作り必要、肥満の子が多い
- ⑧町を歩くことで地元を知ることができ、体力作りにもなる。
- ⑨子育てには、安心と支援が必要、安心はみんなで作るもの
- ⑩「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」ロバート・フルガム
- ⑪料理で子供の五感を育てる。⇒料理を目で見て、色や大きさを確認し、香りを嗅ぎ、調理や食べる音を聞き、口に入れたときの触感を感じ、家族との楽しい食事を味わうことによって、美味しさを感じるといわれている。

【後半】

○参加者 5名

○懇談内容

- ①制度からあふれてくる人が出てくる。
困っている子に合わせてやる。行政がやってもダメ、行政は下から支える
- ②ボランティアなど既存の組織は、あと10年経つと使えなくなる。

自発的、主体的にやる姿がないと長続きしない。

- ③豊似小は地域の人が集まることをコンセプトにしている。
- ④広尾高校は防災型CS（コミュニティースクール）を目指す。防災棟の活用
- ⑤広尾町の特色は何かを議論すべきだ。ここでしかないものを利用する。（水平線）
- ⑥若い女性に魅力ないとダメ。 6次産業を育てる。